

## 「活動の概要と研究成果」

NO.J2418

活動題目: 秘密結社の変容から見た中国南西部地域社会の特質——哥老会(カロウカイ)を研究対象として

所属: 筑波大学人文社会科学研究科 歴史・人類学

氏名: 楊家鑫

### 活動の概要:

2024年度、台北国史館や四川省档案馆など、合計18ヶ所で文献調査を行い、中国南西部の6県で実地調査を行った。最初に計画した地域での調査を全部完成させた以外に、予算総額を変えない前提下に、実際に調査・訪問した場所と地域は計画を大幅に超えた。これらの地域から取得した資料を踏まえて、一本の論文を完成させた。現在は投稿している。

### 研究成果:

論文のテーマ: 「近代中国の地域社会における哥老会首領の支配構築——江油県の蹇氏一族に注目して」。

この論文は、江油県における蹇氏一族の事例を通して、中国南西部地域社会の特質を、哥老会の変容という視点から分析した。この地域では、「匪賊跳梁」という社会不安を背景に、民衆の治安改善への期待と政府の公認が結びつき、哥老会は団練(自衛組織)を組織して軍事的支配を確立した。これは、地域住民のニーズに応える形での権力獲得と、哥老会組織の暴力性の内包による服従のメカニズムを通じて、非公式な社会秩序の形成がなされたことを示す。また、哥老会首領による団練幹部学校のような政治空間への進出は、哥老会が草の根レベルでの社会統治に深く関与していたことを浮き彫りにする。しかし、1935年の中央政府による四川省への介入は、中央と地方の権力闘争を激化させ、哥老会首領は地方の有力者として排除され、その軍事力を剥奪された。この中央集権化の波に対し、一部の首領は実業への転換という形で適応し、地域経済の振興を通じて社会的名声を蓄積した。これは、地方社会における経済的ネットワークの重要性と、非軍事的手段による影響力維持の試みを物語る。1940年代後半の憲政実施に伴う選挙への参加は、首領たちが実業による名声、多様な人脈、そして哥老会組織の再編を政治的資本として活用し、国家権力を後ろ盾とする高位の政治空間への進出を試みたことを示している。この一連の変容は、激動の時代における地域社会のリーダーシップの多様な適応戦略を象徴するものであり、武力による支配から、より多元的な手段による影響力行使へと変化していく中国南西部地域社会の特質を明確に描き出していると言える。